

ASET21 第 58 回議事録

平成 30 年 10 月 5 日

日 時 平成 30 年 7 月 20 日(金) 13:30~17:00

場 所 大阪市立大学文化交流センター・小セミナー室

参加者 北川(日建設計シビル), 佐藤(阪神高速技術), 渋谷(八千代エンジニアリング), 園田(大阪市立大学名誉教授), 谷平(元近畿大学教授), 角掛(大阪市立大学), 中林(CORE 技術研究所), 巻幡(JIP テクノサイエンス), 吉田(パウエンジニアリング), 大阪市立大学 渡部先生(外部講師), ソフトエボリューション 富田様(外部聴講), 大学院生 9 名 (植村, 公文, 小瀬, 菅, 牧野, 遠藤, 塩津, 永田, 毛) 以上 20 名・50 音順・敬称略

資 料 1) ASET21 第 57 回議事録

2) 直下型地震の特徴, 揺れと力の関係~大阪府北部地震に関連させて~ (園田)

3) 平成 30 年 7 月豪雨~橋梁被害を中心に公開データより~ (角掛)

4) 自己歪が鉄筋コンクリート造建築物の構造性能に与える影響に関する研究 (渡部先生)

議 事

1. 記録確認 議事録の確認を行った。

2. 研究報告

1) 園田 6月に起きた大阪北部地震と阪神淡路大震災, 熊本地震を比較して直下型地震の特徴の説明がなされた。さらに, 多層地盤上の構造物への突き上げ力(地盤反力応答)に対する FEM 解析がなされ, 地震力は加速度だけではなく, 力でも表示する必要があるということが報告された。

2) 角掛 平成 30 年 7 月に発生した豪雨災害の概要および, 橋梁を中心とした構造物の被害状況についての報告がなされた。中国・四国地方各地で記録的な豪雨となり, 様々なインフラが被災した現状が示された。特に, 河川氾濫によって橋梁が崩落した事例や, 斜面崩壊により道路や鉄道の交通機能が麻痺した事例が紹介され, 東日本大震災や熊本地震を彷彿とさせる二次災害が生じたと報告された。

3) 渡部先生 自己ひずみによる時間依存性が評価できる非線形解析ソフトの開発について報告がなされた。現状の建築設計指針などの要求に応えられる FEM 解析プログラムが実用化されていないことを受けて「Soft OCU」が開発された。本ソフトは, 若材齢コンクリートの物性変化、さらに中長期的な乾燥収縮やクリープの影響が厳密に評価できるものである。さらに, その経年劣化状態に対して構造性能が評価できることが示された。

3. 次回の予定

日 時 平成 30 年 10 月 5 日(金) 13:30~17:00

場 所 大阪市立大学文化交流センター・小セミナー室

話題提供予定

1. JSBC2018 成果報告

2. 現場見学会について

文責 公文 小瀬 菅